

2020（R2）年度

<2020（R2）/4/1 - 2021（R3）/3/31>

事業報告・活動計算書等

目次

1 事業報告

- (1) 全 体 2 p
- (2) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」 5 p
- (3) ほっとサロン中市「まちのえき」 25 p
- (4) こども明日花プロジェクト 28 p

2 活動決算

- (1) 決算報告書 36 p
- (2) 各種内訳 44 p

特定非営利活動法人 山口せわやきネットワーク

■ 法人全体事業報告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成15（2003）年6月11日に法人としてスタートし、15年目となる平成30（2018）年5月に税制上の優遇措置を受けられる認定格を取得しました。この制度をフルに活用し、令和2（2020）年度は、新型コロナ緊急支援の呼びかけもあり、寄付額は795万円の寄付を集めることができました。平成28（2016）年度からの寄付累計額は、2,500万円を越えました。今後もNPOの柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたく考えます。

事業においては、設立のきっかけともなった、**山口市市民活動支援センターさぼらんて**の運営（山口市委託）、**高齢者等交流施設ほっとさろん中市まちのえき**の運営（山口市委託）とも安定した事業展開をしています。平成28（2016）年度にスタートした**こども明日花プロジェクト**は、新型コロナ緊急支援もあり、総事業費が総額2,917万円（前年比1,000万円増）となり、寄付額も757万円で、委託、助成、寄付と多様な財源確保で運営しています。コロナ禍で厳しい状況は続きますが、ボランティアの協力も得て、こども食堂の開催は難しいものの、学習会・居場所などは感染対策を取って実施しました。

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動には様々な影響があり、さぼらんてやまちのえきではイベント等が減少しましたが、こども明日花では困窮するひとり親家庭への支援など、新たな取組も広がりました。今後も各事業とも職員の安全を優先しながら、事業成果に向けて工夫が必要だと感じています。

18年目が終了し、今後も市民組織らしい、巻き込みと多様な財源確保ができる組織づくりを目指していきます。

1 会議

（1）総会

①通常総会

- 日 時：5月25日（日）18:00～19:30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者数：正会員13名（内、書面表決出席7名）、監事1名、職員1名
- 内 容：令和元（2019）年度事業報告・収支決算、監査報告
令和2（2020）年度事業計画・活動予算

（2）理事会

①第1回

- 日 時：5月2日（金）13:00～14:30
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて
- 出席者：理事3名 職員1名
- 内 容：＜報告＞令和3（2021）年度活動予算、職員体制
＜協議＞令和2（2020）年度事業報告、補正・収支決算、総会等

②第2回

- 日 時：9月25日（金）19:00～20:00
- 場 所：山口市市民活動支援センターさぼらんて（オンライン併用）

○出席者：理事3名

○内容：＜協議＞休眠預金活用法に基づく「新型コロナ緊急枠」について、中国5県休眠預金等活用コンソーシアムと、全国子ども食堂支援センター・むすびえが資金分配団体の募集事業への申請について

②第3回

○日時：12月7日（月）18：00～20：00

○場所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

○出席者：理事3名、職員1名

○内容：＜報告＞令和2（2020）年度事業経過報告 明日花の助成金活用等について

③第4回

○日時：2月16日（火）18：00～20：00

○場所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

○出席者：理事3名 職員1名

○内容：＜報告＞令和2（2020）年度事業経過報告
＜協議＞令和2（2020）年度補正予算・決算見込み
令和3（2021）年度事業計画及び活動予算
役員報酬規程の改正、役員改選当について

(3) 監査

○日時：5月13日（木）18：00～19：00

○場所：山口市市民活動支援センターさぼらんて

2 事業

(1) 山口市市民活動支援センター「さぼらんて」に関する事業 ＜定款事業①②③＞

○令和2年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の6機能をベースとして事業実施。新型コロナの感染拡大に伴い、一時休館となったが、再開後は、職員は間隔を空けた業務スペースを確保して執務。zoom用の機材を揃え、貸出等も行った。

(2) ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業 ＜定款事業①＞

○令和2年度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能として実施しました。特に本年度は、コロナ対策として、利用者数を制限したり、換気等に努めました。また、フリーマーケットによる3密を回避するため、月1回開催から常設に変更しました。

(3) こども明日花プロジェクトに関する事業＜定款事業②③＞ ※＜＞は財源

○学習支援 ＜山口市委託・WAM助成・寄付＞

○居場所づくり ＜山口市委託・寄付＞

○こども食堂支援センター＜山口県委託事業＞

○地域の担い手養成研修 <周南市委託>

○ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）<WAM 子ども未来応援基金>

○高校生SDGsセミナー<河村財団>

○こども食堂・地域食堂、小郡中・宮野中 学校朝ごはん <WAM助成>

○資金調達 委託、助成金のほか共同募金、企業、一般などから 4,465,190 円の寄付。

ファンドレイザーチームによるドネーションパーティーの開催。

○新型コロナ緊急支援：ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」

(4) その他の市民活動<定款事業①②>

①ホームページ新設

当法人としてのホームページを新設 <https://yamaguchi-sewayaki.com/>

各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）

②講師等派遣

ア．行政等会議の出席

○山口県県民活動審議会等 4回 渡邊洋子

イ．講師派遣（法人派遣事業）

○山口市地域づくりアドバイザー派遣 4回 渡邊洋子他2名

<<認定NPO法人山口せわやきネットワーク定款抜粋>>

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業

②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業

③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業

④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

■山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告■

I 委託契約に基づく事業報告

1. 山口市協働推進プランの位置づけ（抜粋）

（1）目指す協働による地域づくりの姿

地域を思い、人々が集い行動する「地域経営」へ

～共に話し、共に汗をかく～

（将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会を目指す）

地域経営の定義

地域全体で地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けて地域内外の様々な団体が参加、協議し、役割分担しながら、地域の持てる資源（人、もの、金、知恵）を有効活用して地域を動かし、持続的に地域の暮らしを支えていくこと。

（2）前期推進計画

基本事業2 市民活動の育成と支援の強化

推進項目① 市民活動団体への支援の強化

- ・新たな基金の創設、ガバメントクラウドファンディング等を活用した新たな財政支援制度の検討
- ・NPO 法人の新規設立促進、安定的運営の支援
- ・市民活動支援センターを中心に、市民活動団体の人材育成に向けた取り組みを推進

② 市民活動団体と市との連携体制の構築

- ・市民活動団体と市の担当課等との円卓会議、話し合いの場づくり

③ 市民活動支援センターの機能強化及び環境整備

- ・地域と市民活動団体とのマッチング
- ・地域住民が市民活動に参加するためのきっかけとなるプログラムの作成
- ・子どもや若者の社会貢献活動への参加促進プログラムの作成
- ・幅広い世代の市民が交流できる市民活動支援センターの環境整備
- ・市民活動支援センターを中心に、高校生や大学生に対して、地域や市民活動等のボランティアのマッチングを行う仕組みづくりの構築

【基本目標】

市民活動団体からの相談対応、伴走支援を基本に以下を重点テーマとする。

○市民活動への参加のきっかけを提供

- ・大学生インターンシップによる市民活動団体のPR 動画制作による情報発信。
- ・これまで実施した大学生を交えた円卓会議での意見を反映した、SNS を活用したマッチングのしくみづくり。
- ・誰にでも居場所と役割がある地域を目指して、多様な社会参加の入り口となる市民活動への参加情報の収集・発信。

○市民活動と地域コミュニティのつながりづくり

協働推進課と連携し、地域コミュニティのニーズを把握した上で、市民活動団体とのマッチングの推進やその他の地域支援への協力。

○市民活動団体へのマネジメント支援

- ・ 寄附など多様な財源確保に向けて、公共の担い手として社会的信頼の得られる事業計画づくりなどの伴走支援を行う。
- ・ 社会課題のテーマごとに行政との連携・協働に向けた円卓会議の実施。

【With コロナ対策】

昨年度末の全国緊急事態宣言で4月13日から5月17日まで山口市の指示により休館。スタッフは、ソーシャルディスタンスを保ちながら、通常勤務（休館中も、電話や電話予約での相談対応は実施）を続けた。その中で、今後はコロナ禍を想定した支援が必要だという認識のもと、まずはZoomミーティングの研修を行い、体験し、非接触の会議や研修、講座などの支援スキルを身につけた。その後、消毒・ソーシャルディスタンス・検温など予防対策を徹底し開館。コロナ禍の対面が懸念される中でも、これまで通り市民活動支援ができるように新たなサービスを以下のとおり実施。

- ① リモートでの相談対応
- ② 登録団体が行うリモート会議・講座のサポート
- ③ リモート活用のマニュアル作成
- ④ リモートによる講座開催
- ⑤ リモート会議等に必要な貸出備品の充実
(Wifi、タブレット、会議用マイクスピーカー、モニター、ヘッドホン、パーテーションなど)
- ⑥ さぼらんでホームページ上でのボランティア情報の充実
- ⑦ 組織内のコミュニケーション強化ツール Kintone 導入、アプリ作成の支援

1 施設管理

リニューアル移転して、2年目となるが、コロナ禍で休館指示により4月～5月1か月近くの閉館となる。平常開館となっても、ソーシャルディスタンスで会議室の利用人数の制限、また新たに事務スペースの確保を行い、制約のある中貸館業務を行った。

(1) 開館日

水曜日及び年末年始(12/29～1/3)、祝日を除いた日を基本の開館日としているが、新型コロナウイルスの拡散防止のため閉館の指示を受け4/13～5/17までを閉館とし、相談業務のみの対応(来館・電話・リモート)とした。

開館日数：246日

相談のみ対応日数：30日(コロナ禍による臨時閉館)

休館日数：71日

(2) 開館時間

9:30～18:00

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

登録団体の時間外利用は柔軟に対応

(3) 各種手続き書類の配置

① 市民活動団体向け

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 登録市民活動団体への提供サービスのしおり | <input type="checkbox"/> 市民活動団体登録・変更用紙 |
| <input type="checkbox"/> 会議利用報告書 | <input type="checkbox"/> ブログ反映機能申請書 |
| <input type="checkbox"/> 印刷機利用カード | <input type="checkbox"/> 機材借用書(貸出) |
| <input type="checkbox"/> 持込みイベント申込書・報告書 | <input type="checkbox"/> インターネット使用簿 |

□窓口業務依頼申請書

□学生ボランティア依頼書

②内部用

□相談カード

□機材貸出予約簿

□拠点利用予約簿

□日計表（日別集計表・累計表・月別平均表）

□職員業務日報

※今年度内部用書類は、Kintone アプリを作成し、共有する仕組みを構築

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。商店街にある拠点を活用し、入り口付近に通りから見えるようにボランティアコーナーを新たに設置。その他、団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

また、市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」など実施後はかわ

ら版も作成し、事後の広報にも努めた。

(1) 市民活動に関わる情報の収集及び整理

①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別ファイルを作成。

②NPO支援情報…全国の支援情報やNPO関連図書を配置。

③市外の市民活動情報…全国の支援センターやNPOの情報を配置。

④助成金情報…年間助成金一覧表を、分野別、締切日別に作成し掲示。

年間のスケジュールや、募集中の助成金ラックを設置し、団体が助成金を探しやすい工夫をした。

⑤ボランティア情報…入口付近にコーナーを設置し、気軽にボランティア情報が得られるようにした。



(2) 広報紙等の発行

1年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかわら版を発行し支援内容を伝える他、山口市まちづくりアンケートにある「機会があれば市民活動をしてみたい（34.1%）」という市民活動予備軍ともいえる市民に対しての啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にしたい。今年度は、助成金アンケートを基に助成金情報の新たな発信方法（Facebook）を取り入れた。

①さぼらんて事業情報

○さぼらんての令和1年度の事業報告ダイジェスト版

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A4サイズ 4P 手刷り

○さぼらんての令和2年度の事業方針及び事業一覧

【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所

【発行部数】 600部

【形態】 A5サイズ 4P 手刷り

○さぼらんてかわら版



さぼらんで事業後に内容をわかりやすくまとめたものを発行

ア. さぼカフェかわら版 ～地域でみつける自分らしい生き方、働き方～

【対 象】 市民、登録団体、地域交流センター、関係各所

【発行部数】 700 部

【形 態】 A4 サイズ 4P 手刷り

②助成金情報

資金難はどの団体でも大きな課題なので、年度初めに「助成金アンケート」を実施し、要望を集め、結果を踏まえて Facebook での発信、助成金豆知識や他団体の声、資金集めの情報などをプラスして発信。

ア. さぼらんでからのおいしい助成金情報の発行

【対 象】 市民活動団体向け 隔月発行（年6回）

【発行部数】 600 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

イ. 助成金情報メルマガ

紙媒体では伝えていない情報も追加し、全ての情報の助成元にリンクを張り、毎月メール送信

【対 象】メルマガ登録団体および担当者 29 団体 34 件

ウ. Facebook タイムラインの活用

Facebook を利用している団体に向けて、助成金情報をシェア。

③ええやん新聞

市民活動予備軍ともいえる潜在市民を対象として、身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信し、この層の新しい価値観との出会いや気づきを刺激し、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【編集上の工夫】

- ・リモート取材や会議の活用。
- ・Google フォームやファイル共有の活用。
- ・モニター制度により、読者の声を次号に反映した。
- ・22号、23号とも大学生の取材や、大学生スタッフを巻き込み若い世代の目線も取り入れた。
- ・発送作業ボランティアを募集し、社会貢献の意欲の充実とさぼらんでや市民活動を知ってもらおうきっかけとした

【発行内容】

- ・発行回数：年2回（10月1日／2月1日）
- ・発行部数：22号…30,000部、23号…30,000部
- ・対 象：市民（主に子育て世代想定）
- ・配 布 先：市内公立幼稚園、小・中学校、21地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回覧、他関係各所。

【特集内容・テーマ】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受け、今だから考えなくてはならない「自分にできること」としてボランティア活動への参画を促す記事、「お互いを認め合える社会へ」として多様性への理解について発信。

<22号>特集：今、私にできること

- ええやんピープル：西本葉子さん（やまぐち食育くらぶ代表）
- チャートで探すボランティアと併せて市内の団体の紹介
- 大学生を対象にしたボランティア調査隊
- 思いやりマスクの行方
- レシピ、読者クイズ、編集後記

<23号>特集：認め合える社会へ

- ええやんピープル：大下憲彰さん（株式会社 lool 代表取締役）
- みんなちがってあたりまえ（市内の団体の紹介）
- 山口避難所物語
- ハンドメイドから広げたい！社会の「きっかけ」
- レシピ、読者クイズ、編集後記

【成果】

市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

22号.23号	項 目	22号	23号
	より身近に市民活動を感じた（理解・関心が高まった）	13.9%	22.5%
	社会課題（特集内容）について考えるきっかけ、共感につながった	44.4%	42.5%
	情報提供を活用	8.3%	2.5%
	はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった	6.9%	0%
	さぼらんでの周知につながった	3%	0%
	その他	22.2%	32.5%

・読者層は、ターゲットにしている 30～50 代の主婦や会社員を中心に学生やシニア層にも関心を持ってもらえている。

・クイズの応募は回覧版からが多く、地域への情報の広がりがうかがえる。

・はじめの一歩につながったとの回答は低いものの、アンケートからは、「これからボランティア参加したい」、「コロナが落ち着いたら参加したい」、「自分にできることはないか考えるきっかけになった」、「退職したら自分の好きなボランティア活動に参加してみたい」、「次号も楽しみ」など前向きな意見が多数寄せられた。また、個別の記事や活動についての具体的な感想が多く、読者の興味の高さがうかがえる。

④活動インフォメーション

毎月の市民活動情報の中から一般市民が馴染みやすい情報を選定し、紙媒体として発行。商店街のチラシ入れなど、広く市民の目につくところに配置。

【対 象】 市民向け 毎月発行

【発行部数】 偶数月 1050 部、奇数月 570 部

【形 態】 A4 サイズ 両面 手刷り

(3) ホームページ

ホームページへの来訪者が「ボランティア」ワードでの検索が一番多いことから、トップページにボランティア募集新設した。コロナ禍により、対面よりもネット検索で情報を得られるようにしたいというニーズがあると考え、ボランティア情報を始め、講座レポートやお知らせなど基本情報の蓄積をし、その情報を SNS 等で拡散するように努めた。

■アクセス数は、21,341 件（58 件/日）。実人数 14,286 人。

①まちサポ広場（電子図書館）の市民活動団体利用

登録団体（311）の基本データは全て掲載。

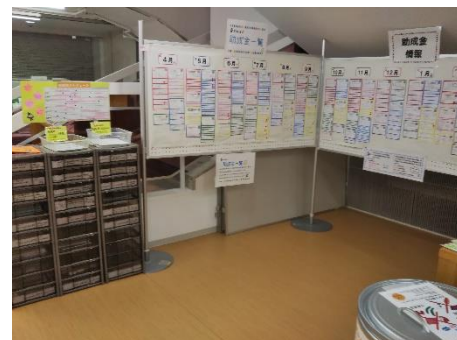
	2019年度	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度
利用団体数	311	311	307	297	301
更新団体数	42	52	52	64	53
年間記事数	1,561	1,362	1,766	1,982	1,467

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：19件 講座等レポート：9件 さぼろぐ（ブログ）31件 Facebook：58件

（4）情報交流コーナーの活用（「さぼらんて」前面フロア）

- ①市民活動紹介コーナー：団体紹介ミニポスターを作成し掲示。
- ②助成金コーナー：展示場所を前面に出しPR。
- ③NPO法人情報コーナー：NPO法人格取得に向けて情報などを設置し、掲示がマンネリ化しないようにレイアウトを随時変更するとともに、市民活動等に関する情報を分野に分け、見出しやコメントをつけて掲示し啓発。



（5）マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを実施。

（6）市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

コロナ禍で開催が危ぶまれたが、例年どおり写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」など展示し、幅広い市民に向け、市民活動情報の提供を行った。今年度は、団体のPR動画もロビーのモニターを活用して流した。



【展示内容】

- ・さぼらんてポスター
- ・さぼらんて広報紙（ええやん新聞等）
- ・登録団体活動紹介ミニポスター63団体
- ・団体パンフレット25団体
- ・発達障害啓発週間（4月2日～8日）

【展示場所】

開催日：令和2年3月24日(火)～4月16日(木)

場所：山口市役所ロビー

3 相談

市民活動支援の基本を相談に置き、多様な相談に対応。特に運営相談は、寄り添い支援を基本に必要な場合は専門家と連携し対応していった。

また、商店街に設置されていることから、市民からの活動相談等も半数以上を占め、個人の活動への相談対応や、市民活動団体との橋渡しも行った。

（1）相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メールによる相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相談件数 538件（来所 340件、電話 198件）

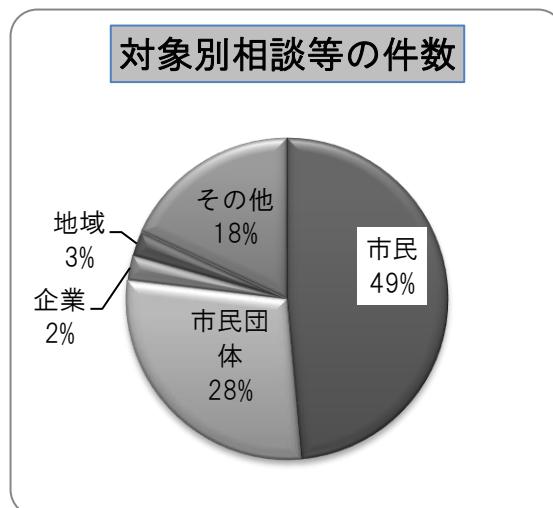
○問い合わせ件数 164件 (来所 103件、電話 61件)

※職員の相談カードに記載された特記事項のあるものの件数は463件(グラフ集計総数)

【対象別相談内訳】

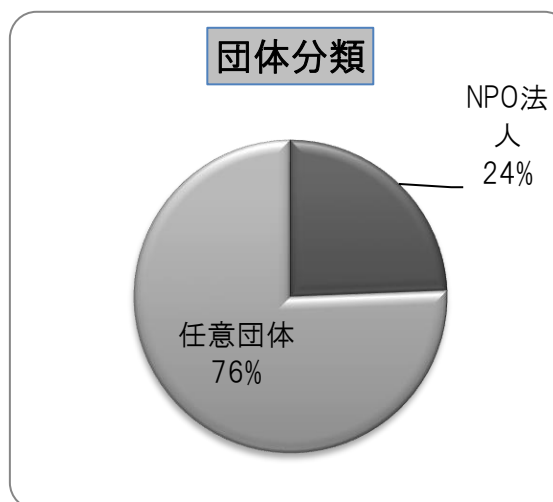
対 象	件 数
市民	233
市民団体	119
地域	12
企業	12
その他	98
合 計	463

相談件数、内訳割合ともに横ばい。メディアに取り上げられる団体が複数あり、市外からの問い合わせが増えた。地域からは、情報発信、団体マッチングに関するものが主。企業からの相談はこれまでのつながりや紹介によるものが大半。



【団体からの相談内容種類別内訳】

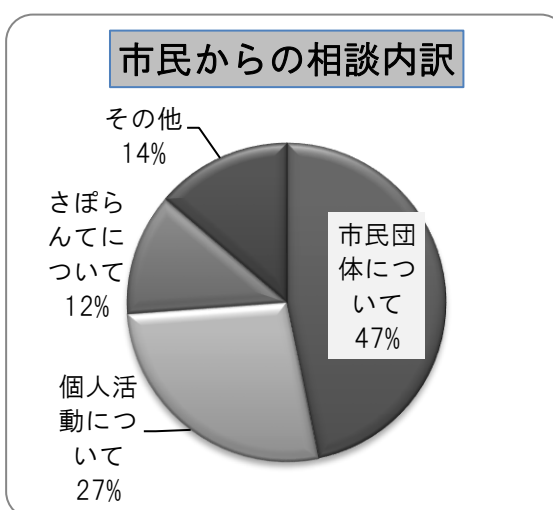
団体分類	内容	件数	
NPO法人	運営	10	29
	活動	19	
	その他	0	
任意団体	運営	10	90
	活動	80	
	その他	0	
合 計		119	119



法人からの相談件数は昨年度より倍増。事務処理に関すること、他団体やボランティアとのマッチングの要望が特に多かった。任意団体からの相談は、立ち上げや助成金、情報発信等で継続・伴奏支援を必要とするものが目立った。

【市民からの相談内容内訳】

内 容	件数
個人的活動について	63
さぼらんてについて	29
市民団体について	109
その他	32
合 計	233



(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

市民からの相談の10件に1件がボランティアを希望するもので、昨年より2倍に。市報掲載後の反響が特に大きかった。移転にともない、さぼらんてに関する問い合わせや初来館の市民が増えた。犬猫の相談は依然として多いが、これまで大半だった譲渡や引き取りに関

するものから徐々に TNR に関するものに推移している。

4 人材発掘・養成

市民活動団体の永遠の課題、人材不足・資金不足を解決するための寄付集めや事務力の簡素化、などに焦点を置き講座を実施。また、ファンドレイジングや Kintone 講座については、講座終了後も伴走支援を行っている。

全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積している。

(1) 講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講師	参加者
1	寄付にトライ！ファンドレイジングの基礎 (Zoom 開催)	5/29 10-12	日本ファンドレイジング協会 認定ファンドレイザー 柿沼 瑞穂氏	5 団体 6 名
2	Kintone で事務作業を簡素化 (Zoom を活用し 2 拠点で開催)	8/20 10-16	(株)コミクリ 和田真純氏・福田恵子氏	7 団体 11 名
3	オンライン告知講座 (Zoom 開催)	10/12 10-11: 30	NPO 法人市民プロデュー ス 小柳 明子氏	7 団体 8 名
4	短いフレーズで思いを伝える POP 講座 (Zoom 開催)	3/2 10-11: 30	NPO 法人 NOBORDER 松本 奈津美氏	9 団体 12 名

1. 「寄付にトライ！」 With コロナを意識して初めての Zoom 講座となりましたが、比較的スムーズに実施できました。参加団体のアフターフォローや参加できなかった団体へのオプション講座も行った。
2. Kintone 講座は、導入済の地域にも声をかけ Zoom を活用してさぼらんと大内地域交流センター2 所で行いました。希望団体にはアフターフォローの講座も開催しました。アプリ作成に向けて現在も 2 団体に伴走支援した。
3. オンライン告知講座も、With コロナを前提にし Zoom で開催。SNS やインターネットを活用した拡散型の告知をより目の止まるもの、申し込みの簡素化などターゲットを絞った告知講座を開催。
4. POP 講座も Zoom 開催。寄付集めの初めの一步募金箱設置に向けて短いフレーズで共感を呼ぶ POP 講座を開催。

(2) 市民活動団体への運営支援

任意団体、NPO 法人含めた運営支援やこれから立ち上げる団体への支援などの寄り添い支援に力を入れた。特に理事会や講座をオンラインで行うための Zoom 支援や、団体内の事務作業を簡素化する Kintone アプリの活用に力を入れた。単発の相談については、相談報告に計上。

①運営支援 20 団体 (NPO 法人 7 団体、任意団体 13 団体) へ 73 回

内 容	団体数	回数
Zoom 活用支援 (導入から会議サポートまで)	7 団体	16 回
活動支援 (活動実施にあたっての継続的相談)	4 団体	11 回
助成金相談 (助成金申請について)	8 団体	9 回
Kintone 活用支援 (導入からアプリ作成まで)	3 団体	9 回
団体立ち上げ	4 団体	5 回

ファンドレイジング勉強会（理事を集めての勉強会）	2 団体	5 回
会議支援（団体内や他機関との会議等の立ち合い）	3 団体	5 回
ブログアップ等の支援	3 団体	4 回
映像づくり支援	1 団体	4 回
クラウドファンディング	1 団体	4 回
他団体等とのコーディネート	1 団体	1 回

②アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」などの推薦を行った。

(3) 企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

7 年目を迎えて、閉業した個人事業主の方があったものの、それぞれNPOと企業のつながりは深く安定し、よいパートナーとなってきている。

【2020 年度実績】

寄付金総額 135,096円

5年間の寄付総額 1,521,322円

エントリーNPO法人：①認定NPO法人こどもステーション山口

②認定NPO法人支えてねネットワーク

③NPO法人あっと

協力企業：①（株）メルシー

② 木のおもちや専門店 リンドヴルム

③ ポーラ Sweet

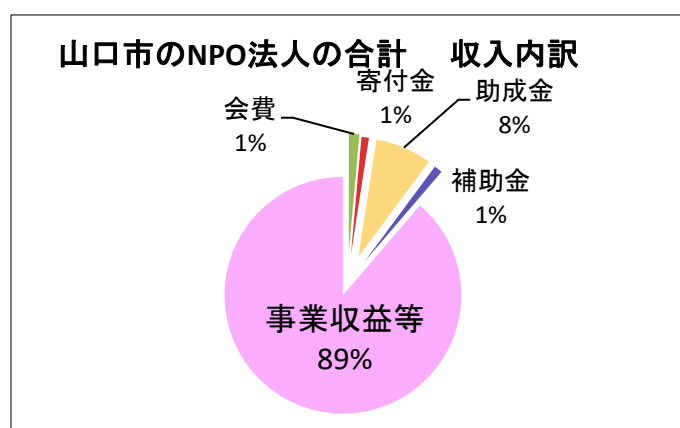
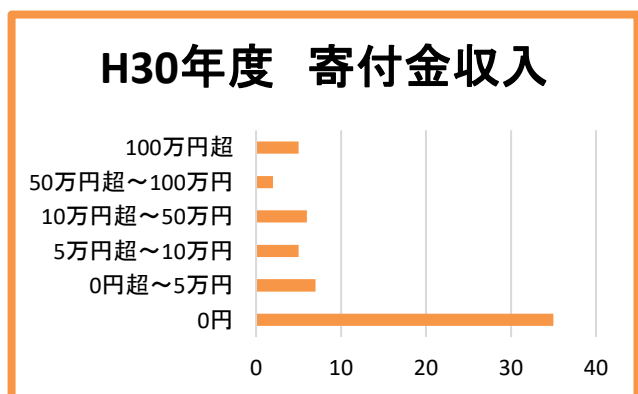
④（有）寿司やす

⑤（株）モリイケ

⑥（有）BAY TOKYO

その他の連携：NPO法人山口せわやきネットワークへの「こどもの貧困対策連携企業」提携企業3社、自動販売機設置企業4社。

【参考】山口市内のNPO法人のリアル



山口市内に主な事業所を置くNPO法人80法人についての調査。平成28年の改正NPO法に基づく公告義務を果たしているNPO法人は8法人に留まり、今後指導の必要性がある。

寄付金のないNPO法人が35団体と半数以上を占める。年間100万円以上の寄付金収入のある団体は5法人にとどまっている。収入については、介護サービスや委託などの事業収集が90%を占め、寄付金については1%にとどまり、多様な財源確保には程遠い現状がある。

(4) インターンシップ推進事業

山口県インターンシップ推進協議会からの受入れ、今年度は社会人インターンシップの希望もあり9名受入れた。

■推進協議会からの受け入れ1回目(1名、5日間)

- 学 生 山口大学経済学部3年(女子)
- 期 間 令和2年11月6日(木)～令和2年11月13日(金)
- 受入団体 協力団体3団体]

■推進協議会からの受け入れ2回目(1名、5日間)

- 学 生 山口県立大学国際文化学科3年(女子)
- 期 間 令和3年1月25日(月)～令和1年1月30日(土)
- 受入団体 協力団体4団体

■推進協議会からの受け入れ3回目(3名、5日間)

- 学 生 ①山口大学農学部3年(女子)
②山口大学理学部2年(男子)
③北九州女子栄養学科2年(女子)
- 期 間 令和3年2月15日(月)～令和3年2月20日(土)
- 受入団体 協力団体4団体

■一般受け入れ3回目(1名、3日間)

- 所 属 高校教諭(男性)
- 期 間 令和2年10月8日(月)、9日(火)、11日(木)
- 受入団体 協力団体5団体

■その他

今年度はコロナ禍のため県立大学の地域演習が実施されず、授業の中でのZoomでの活動紹介に留まった。

(5) 学生による動画作成事業

インターンシップのステップアップとして、以前にインターンシップ経験のある学生に声掛けし、登録してもらい市民活動団体紹介及び地域紹介VTR制作を行った。

■以下の団体取材し、5分程度の構成を考え、編集作業をおこなった。

- ①親の会カフェ～起立性調節障害の親の会～
- ②NPO 法人里山ネットワーク
- ③みやの地域づくり協議会

作成後は、さぼらんてHPの特設ページ内で公開

(6) ボランティア募集の発信強化

さぼらんてに寄せられる相談のうち10件に1件が「ボランティア活動してみたい」というもの。その数が2019年度は、前年度より2倍に増えた。さらに、さぼらんてのホームページでの検索ワードランキングでボランティアは常に上位に来ている。



①ホームページで市民に発信

トップページに新しい情報を3件ずつ掲載できるように変更した(下画像参照)また、表示画面も関連画像を加えて視覚的にわかりやすく、情報も項目ごとに整理して掲載するようにした。さらに、ホームページに掲載されたボランティア情報を簡単に印刷できるシステムも採用した。

②拠点で市民に発信

ホームページのボランティア情報から印刷し、拠点に掲示し、持ち帰りできるようにした。また、拠点入口の目のつく場所に「ボランティアコーナー」(画像参照)を設置することで、通りすがりの市民へ向けて、ボランティアへの関心を生むきっかけを作った。

さらに、活動インフォメーションの一部にも掲載し、一般市民の参加を促した。

③SNSで発信

ホームページに掲載されたボランティア募集情報をさぼらんてのSNS(Facebookとボランティア情報に特化したInstagram)でも発信し、ボランティアへの意識がある市民や団体から拡散するように仕掛けた。

5 協働促進・ネットワークに関する業務

(1) さぼカフェ(事前アンケート及びさぼカフェ開催2回)

地域やNPOでは、事業を支える人手不足が課題となっている。一方、家族の生活サイクルを支えるためフルタイムでは働けないが、特技やスキルを活かしたいと思っている子育てママや、体調と相談しつつ単発・短時間でなら働ける有病者もいる。両者の現状とニーズを知り、マッチングの機会につなげたいという思いから企画した。

【事前アンケート実施】

企画実施の前に、子育て交流施設の協力を得て、子育てママの意識調査を行ったところ、地域からは、広報紙の記事やレイアウトのマンネリ、SNSやホームページでの情報発信の苦手意識、人材育成への課題などがあがっていた。育て中のお母さんへのアンケートでは、地域づくりやNPOへの興味は15.8%にとどまるものの、勤務時間に融通がきけば検討したいとの回答が4割近くを占めている。このように地域の情報発信の苦手意識解決のために、子育てママを活用することはコーディネート次第では高相性なのではないかと考える。

【さぼカフェ】

第1回『それぞれの「今」を語る』

日 時：2020年9月17日(木) 10:00~12:00

会 場：さぼらんて会議室

参加人数：12名

参加者：7団体6名、支援者6名(2機関)

内 容：●さぼカフェのテーマ・趣旨説明

●自己紹介(所属団体と名前、ボランティア活動歴など)

●参加者による地域・NPOの人材不足の現状について

●参加者による働き方エピソード 2件

●事例紹介

●個別ワーク「地元住民の才能や能力を生かすためのアクションプラン」

●発表・●まとめ

第2回 『地域で叶うワークライフバランスを考える』

日 時：2020年11月13日（木）13：00～15：00

会 場：さぼらんで会議室

参加人数：10名

参加者：7団体6名、支援者2機関4名

内 容：●本日の流れ

●自己紹介

●前回の振り返り

●前回の深堀り

●次の一歩に向けて「〇〇やります！」宣言

●まとめ

上記の内容をまとめたかわら版を発行。

（2）阿東地域再生計画の会議内容記録・可視化サポート

「（仮）第二次阿東地域再生計画」は、策定段階から地域住民とのグループワーク等を実施し、課題等を共有しながら取り組み内容を検討することにより、地域における問題意識と課題解決への取り組み意識の向上を図り、持続可能な地域の形成を実現する計画として策定することとなった。

これをうけさぼらんででは、地域外の視点を持つ立場から策定会議の一員として会議参加するとともに、会議やワークショップなどで話し合われる内容をグラフィックすることで可視化し、活発な議論の拡散・収束をサポートした。

①会議実施日と内容

【第1回】令和2年7月28日（火）※会場+オンライン

■第2次阿東地区再生計画策定における概要の確認

■ワーク

【第2回】令和2年8月4日（火）※オンライン

■第2期山口市まち・ひと・しごと創出総合戦略の読み込み

■ワーク

【第3回】令和2年8月26日（水）※オンライン

■会の名称決め→アトリエ（阿東の再生を描く会）

■ワーク

【第4回】令和2年9月9日（水）※オンライン

■第一次再生計画『阿東ふるさとにぎわい計画』について

■ワーク

【第5回】令和2年9月24日（木）※オンライン

■広報について

■ワーク（高齢）「子ども」「働き盛り」世代ごとの役割や課題について

【第6回】令和2年10月9日（金）※対面

■策定のポイント、今後のスケジュール確認

■必要なデータや統計について確認、準備にむけて

- 【第7回】令和2年10月28日（水）※オンライン
 - データ分析
 - ワーク
- 【第8回】令和2年11月13日（金）※対面
 - 事業案プレゼン
- 【第9回】令和2年11月25日（水）※対面
 - 次回「阿東未来会議」打ち合わせ
- 【第10回】令和2年12月11日（金）※阿東中学校
 - 阿東未来会議参加
- 【第11回】令和2年12月30日（水）※オンライン
 - 組織（地域経営会社等）の運営と代表者について
- 【第12回】令和3年1月19日（火）
 - 長門市俵山 株式会社 SD-WORLD 視察
- 【第13回】令和3年2月10日（水）※講師のみオンライン
 - 視察報告
 - 2つ目の拠点について

②振り返り

会のメンバーが、実績と信頼のある地元NPO（NPO 法人ほほえみの郷トイトイ）や地域づくり協議会職員、自営業の地域住民の他、半数が山口市職員等で構成されており、課題分析に必要な地域住民の声や、各種データや統計など情報の収集、分析に長けている、制度について熟知しているという強みがある。話し合いのベースに常に「誰のため」という投げかけがあり、話し合いの肝がブレることがない。会の中だけの意見に終始しないよう、中学生の意見を聞く「阿東未来会議」やオンライン会議の視聴者を呼びかけるなど、地域住民の声を拾う場も設けた。あと一歩「誰がやる」を話し合い中。

（3）その他地域づくり関連事業

①地域協力事業

地域ワークショップなどへの参加・協力（のべ16回）

日付	内容	主催	参加者数
2020/6/7	大内地域コドモジカプロジェクトの協力	茅野神田自治会	1名
2020/6/19 -2021/2/19	阿東地域再生計画会議（13回）	阿東の未来を語る会(アトリエ)	各1名
2020/9/11	大学生が作る宮野地域CM打合せ		2名
2020/10/30	小鯖全住民アンケート入力作業	小鯖地域づくり協議会	1名

（4）その他のネットワーク

- ① 関係各所との連携に向けて、以下のとおり関係会議等に参加。

【市民活動支援県域会議等】

日付	会議名	主催	場所	参加者
2020/7/16	県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター —	パルトピア山口	1名
2020/7/30	県内支援センター長会議	県民活動支援センター —	Zoom	1名
2021/3/2	県民活動ネットワーク会議	県民活動支援センター —	Zoom	2名

【審議会等】

日付	会議名	主催	場所	参加者
2020/8/24	域外プロボノワーカー受入れ団体審査会	山口県	山口県庁	1名
2020/8/25	山口県県民活動審議会	山口県	山口県庁	1名
2020/12/18	頑張る県民活動団体応援事業補助金審査会	山口県	山口県庁	1名

【その他】

日付	会議名	主催	場所	参加者
2020/11/19	協働の推進ネットワーク会議	山口県・県社協・きらめき財団	周南市	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

(1) 市民活動団体登録制度の運用

○2020年度末 登録団体数：311団体（前年度311団体）

＜NPO法人44（内認定NPO法人4）団体、
その他の法人5団体、任意団体262団体＞

新規登録団体数：8団体

解散団体数：8団体

(2) 登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

○団体BOX利用

要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：19団体

○印刷機材の提供

利用件数：166件

利用団体数：39団体

○会議室の提供

利用件数：257件

利用団体数：34団体

○市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：34件（延べ利用日数86日）

利用団体数：9団体

②事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：30件

③広報支援

○「さぼらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぼらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。
なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：36団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた、団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事カレンダーに反映した。

④機材貸出による支援

貸出機材件数：168件

□ワイヤレスマイク一式	4件	□マルチプロジェクター	38件
□スクリーン	27件	□パネ	15件
□イゼル	26件	□長机	15件
□延長コード	18件		
□イス	9件	□その他	16件

(3) コロナ禍におけるオンライン講座・会議等に向けての支援と機材貸出しサポート

市民活動における感染症拡大防止のため、イベントや会議等をオンライン開催に移行する団体への運営サポートのために機材の無料貸し出しを行う。（山口県の頑張る県活動団体応援事業補助金を活用）

①県内支援者ネットワーク勉強会

オンライン運営マニュアル作成、お試しオンライン会議、運営研修などを通じて、オンライン会議の支援力を高めた。団体からのオンライン会議等の支援は40件以上になる。

②機材貸し出し

登録団体等には、通常の貸し出し機材に加えオンライン講座等で活用できる機材（以下一覧）を新規に購入。新規購入器材について、さぼらんてHPよりお知らせした。

品名（個数）	品名（個数）
マイクスピーカー（2）	LANケーブル10m（1）
タブレット（2）	LANケーブル5m（1）
タブレット台（2）	HDMIスプリッター（1）
三脚付き広角カメラ（2）	HDMI（2m）（1）
モニター（2）	HDMI（10m）（1）
パーティション（5）	ワイマックス（モバイルWi-Fi）（1）
非接触体温計（3）	ドラム式延長コード（2）

7 その他の事業

(1) 館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぼらんてでは寄付やカンパを募り、山口市内から東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 53,883円

- 寄 付 先 ①りす会山口
②福島～山口いのちの会
③山口災害救援
上記団体に17,000円ずつの配分

(2) 不要なマスクの回収

来館者からの問合せがあり、政府から配布されるマスクが不要な方のマスクを回収することとした。

- 回収期間：5月末～10月末
 - 回収総数：約2,200枚 山口市民はじめ全国各地の個人、県内企業より
 - マスクが呼び水となった現金寄付：11万1,000円
 - 配布先団体
 - ①こども明日花プロジェクト (580枚)
 - ②style (300枚)
 - ③NPO法人あっと※学童 (200枚)
 - ④不織布のマスクに関しては熊本の被災地へ (240枚)
- ※880枚は検品の結果「不備」で配布に至らず

II 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。今年度は特にコロナ禍による、オンライン会議や講座などの支援力を高めるために、Zoomの研修やKintoneを取り入れるなど対面しなくてもコミュニケーションが進む工夫も行き、withコロナにおける支援力を特に高めた。ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

- 事業スタッフ6名(常勤4名非常勤2名)、広報スタッフ2名、学生スタッフ7名(インターンスタッフ含む)
- ボランティアコーディネーションカ3級取得者5名配置
<NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会認定>
- NPO法人事務力検定初級4名配置

2 意見聴取

「さぼらんで」への意見・要望を、下記のとおり随時聴取し、運営の参考とした。

- 市民活動団体来所時及び相談対応時における意見の聞き取り。
- 「さぼらんでだより」同封作業時に協力市民活動団体から聞き取り。
- 講座開催時の参加者アンケートによる把握。
- ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。
- 団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

○インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぼらんて」設置者の山口市協働推進課と運営NPO職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施においてのスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内 容	担当課	さぼらんて
2020/4/14	年間スケジュールについて	2名	5名
2020/6/9	With コロナ禍における事業の修正スケジュールについて	2名	5名
2020/7/10	山口市の協働推進について	3名	6名
2020/11/20	頑張る補助金推薦について	2名	3名
2021/1/7	年間事業進捗と次年度事業について	2名	5名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。今年度はコロナ影響で殆どがリモートで参加できるもので、「ファンドレイジング日本」「日本ボランティアコーディネーター研究集会」などに参加できた。

研修等一覧

① 運営支援のための講座・研修等 (38回のべ55名参加)

日時	内 容	主催	場所	参加者
2020/6/26	「地域のワガコト化」のための未来推計データ勉強会	株式会社ローカルラボ	オンライン	1名
2020/9/3	人口減少・超高齢社会の「まちなか」の地域づくり運営改革	県民活動支援センター	パルトピア	1名
2020/9/5~ 2020/9/14	FRJ2020 7分科会に参加	FRJ	オンライン	のべ 8名
2020/9/15	「社会を変えるための提案するチカラ」	一般社団法人SANY	オンライン	4名
2020/9/17	NPO事務局 学びの学校 ⑤税務	県民活動支援センター	オンライン	1名
2020/9/20	助成金の基本を学び、団体で本当に活用するための作法	FRJ	オンライン	1名
2020/9/29	「提案するチカラ」セミナー	一社) SANY	オンライン	4名
2020/10/5	クレーム対応講座	県民活動支援センター	オンライン	4名
2020/10/8	NPO事務局学びの教室(定款編)	県民活動支援センター	オンライン	1名
2020/12/3	Cybozu Days 2020 Osaka	Cybozu	オンライン	1名
2020/12/6	非営利組織の戦略的な財源調達ノウハウ獲得セミナー	山口県	山口市内	1名
2020/12/10	30分で会計freeeがよくわかる! ウェ	freee	オンライン	2名

	ブセミナー			
2021/1/24	伝わるオンラインプレゼンテーション～デジタル環境のあたらしいあたりまえ～	えんたくんミーティング	オンライン	1名
2021/1/29	全国NPO事務支援カンファレンス 全 国一斉オンラインセミナー&検定	全国NPO事務支援カンファレンス	防府市協働センター	3名
2021/2/13	みんなの助成金セミナー	公財) 山口きらめき財団	パルトピア	1名
2021/2/18	PBL 実践報告会「地域を元気に！コロナ禍での学生たちの挑戦」	大学リーグやまぐち	山口県立大学	4名
2021/2/25 ～2/28	市民の参加と協働を進める多様なコーディネート実践研究集会 2021 11 分科会参加	認定非営利活動法人JVCA	オンライン	のべ15名
2021/3/19	事業評価入門講座	NPO 法人岡山NPOセンター	オンライン	2名

② 個別のテーマの研修等（12回のべ17名参加）

日時	内容	主催	場所	参加者
2020/6/15	コミュニティマネジメントカフェ 緊急事態宣言明けの「イベント」と 「ミーティング」をどうするか	NPO 法人 CR ファクトリ-	オンライン	2名
2020/7/2	「オンラインでも会議上手になろう！」	青木将幸ファシリテーター事務所	オンライン	1名
2020/7/27	シングルマザーと若者のファイナンシャル・ヘルスの実態～ 新型コロナ後の支援のあり方を考える	日本NPOセンター	オンライン	1名
2020/8/4	市民活動団体の財源力を高める！ オンライン戦略セミナー	NPO 法人やまぐち 県民ネット 21	パルトピア	1名
2020/9/13	コロナ禍 時代を生き抜くヒント	一財) セブン-イレブン記念財団	オンライン	1名
2020/9/27	災害ボランティアセンターコロナウィルス感染対策検討会	災害復興支援団体 山口災害救援他	オンライン	1名
2020/12/8	しる・つながる・まもる やまぐち 防災つながりカフェ Vol.1	県民活動支援センター	パルトピア	4名
2020/12/20	多文化共生社会の構築シンポジウム 外国につながる高校生たちの『活躍する力』を拓く	公益財団法人日立財団	オンライン	1名
2021/1/16	令和2年度多文化共生講座ー「おとなりさんに、こんにちは！」～あなたの隣に住んでいる外国人を知っていますか？～	国際交流協会	オンライン	1名
2021/1/23	災害時における外国人対応と地域防災のこれから	山口県国際交流協会	オンライン	1名
2021/2/5	農山漁村イノベーションフォーラム	やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会	オンライン	1名
2021/2/13	災害時外国人サポーター養成講座	山口県国際交流協会	オンライン	1名
2021/2/25	外国人住民への情報発信：コロナ禍で見た現状と課題	外務省・国際移住機関 (IOM)	オンライン	1名

③ 視察・見学

日時	内容	主催	場所	参加者
2020/6/26	いちのせき市民活動センターオンライン視察	周南市ふるさと振興財団	オンライン	4名
2020/7/2	オンライン視察②	周南ふるさと財団	オンライン	2名
2020/7/7	オンライン視察 岡山 NPO センター	周南市ふるさと振興財団	オンライン	4名
2021/1/10	対話型交流クラス「日本語でおしゃべりしよう♪」	日本語クラブ周南	周南市シビック交流センター 交流室1	1名
2021/1/21	俵山(株)SD-WORLD 視察	アトリエ	長門市俵山	1名
2021/2/9	地域参加型道徳授業への参加	平川中学校	平川中学校 2年1, 2組	1名

④ 県内支援者ネットワーク自主勉強会

日時	内容	主催	場所	参加者
2020/6/5	勉強会企画の共有	勉強会ネットワーク	オンライン	1名
2020/6/18	団体の Facebook デビューを Zoom で支援する	勉強会ネットワーク	オンライン	1名
2020/7/31	たねδカフェ Vol.41	NPO 法人市民プロデュース	オンライン	3名
2020/12/28	2020 年振り返り会	勉強会ネットワーク	オンライン	1名
2021/2/4	提案するチカラ」セミナー フォロ－勉強会	一社) S A N Y	オンライン	2名
2021/2/9	提案するチカラ」セミナー フォロ－勉強会	一社) S A N Y	オンライン	1名
2021/2/25	ソシオマネジメント勉強会	有志	オンライン	1名

■主なサービスの数値集計

(単位：人)

分類	内容		令和2年度	令和元年度	31年度	
基本	入館者数		21,768	21,007	23,584	
	登録団体		319 <small>(新規13、解散5)</small>	311 <small>(新規8、解散9)</small>	311 <small>(新規8、解散5)</small>	
各種サービス	相談等	相談総数		591	538	514
		内訳	来所	266	340	344
			電話	325	198	170
		問合せ総数		78	164	220
		内訳	来所	44	103	132
			電話	34	61	88
	拠点活用支援	会議室利用	総数	252	257	300
			利用団体数	34	34	26
		印刷機利用	総数	93	166	209
			利用団体数	28	39	37
		団体インターネット利用		45	64	127
		持ち込みイベント	開催のべ日数	75	86	46
			イベント数	60	34	24
			利用団体数	17	9	8
		機材貸し出し件数		146	177	177
		団体BOX利用団体		20	19	75
	情報発信支援	同封サービス利用団体		18	36	29
		ポータルサイト (さぼらんてHP) 利用団体	利用団体数	319	311	311
			更新記事数	1,460	1,561	1,362
			更新団体数	47	42	52
活動・お知らせ更新団体数			2	2	7	
ブログ反映機能利用団体数			45	40	45	
その他	ホームページアクセス数	総数	33,586	21,341	15,343	
		実人数	24,548	14,286	8,866	

■～ほっとサロン中市「まちのえき」～ 事業報告■

<高齢者等交流施設運営業務 山口市高齢福祉課：委託事業>

平成15年4月20日、市民の交流の場となる施設【ほっとサロン中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成15～18年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成19～24年度は「ひと」と「まち」をつなぐ」をテーマに、そして平成25年度からは高齢者同士の交流を主テーマとして事業展開を図りました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度の臨時休館(3月5日～26日)に引き続き、4月11日から5月17日まで、臨時休館となりました。5月18日からは、感染症防止対策を徹底した上で、開館しています。

<「まちのえき」における新型コロナウイルス感染症防止対策>

- ・新型コロナウイルス感染症についての山口市の文書（～施設の利用にあたっての留意事項～）を利用者に渡し、説明する。
- ・マスクを着用して入館していただく。
- ・入口で手の消毒にご協力いただく。
- ・入口での検温にご協力いただき、37.5度を超えた場合は入館をご遠慮いただく。
- ・咳をする人がいた場合、利用を控えるよう呼びかける。
- ・交流サロンにおいて、席と席の間の距離をできるだけ離し、大きな声での会話はご遠慮いただく。
- ・密閉空間にならないよう随時換気を行う。
- ・受付コーナー、各テーブル、まちの保健室内、それぞれにアクリル板を設置し、対面での飛沫防止を心掛ける。
- ・利用されたテーブルや椅子、トイレのスイッチ等の消毒を適宜行う。
- ・トイレ利用時には蓋を閉めて流すように張り紙を掲示。

1 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

- 開館時間 10:00～16:00
- 休館日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始
- 施設及び備品類の管理
- 利用者統計 令和2年度利用状況参照

2 休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気を提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

- お茶の提供
- フリーマーケット in まちのえき

人と人のつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。(施設開館日の10:00~16:00)

3 健康相談(まちの保健室)

- (1)開室日時 施設開館日の10:00~16:00
(休室時間12:00~13:00)
- (2)実施体制 保健師又は看護師が1日1人の当番制で行いました。
- (3)会 議
対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました(年2回)。
- (4)利用状況 令和2年度利用状況参照

4 情 報

- (1)「まちのえき」リーフレット令和2年度版の発行(1,240部)
- (2)店頭及び館内に情報コーナー設置
- (3)情報誌の発行(まちのえきだより 月1回 各350部)
- (4)情報誌の発送
希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました(登録9名)。
- (5)ツイッターでの発信
利用される方から聞いた情報やまち歩きから得た情報などを発信しました。
<https://twitter.com/machinoeki>

5 移動機器の貸出

- 貸出日時 施設開館日の10:00~16:00
- 貸出状況
・車いす10回 ・シルバーカー2回 ・ベビーカー0回

6 そ の 他

- 山口市「赤ちゃんの駅」に参加
・4月1日~3月31日
- 感染症拡大防止のため臨時休館
・4月11日~5月17日

＜令和２年度＞ほっとサロン中市「まちのえき」利用状況

（単位：人）

	開館日	利用者数	1日 平均	イベント 等	まちの 保健室	1日 平均	タウンモビリティ			
							車いす	シルバーカー	ベビーカー	
H15～19年度	1,469.5	73,607	50	5,831	23,869	16	198	—	332	
平成20年度	266.5	14,019	53	1,849	4,759	18	41	—	154	
平成21年度	265	14,778	56	2,137	5,268	20	81	6	67	
平成22年度	267	14,536	54	1,812	5,624	21	39	9	34	
平成23年度	267	17,234	65	1,487	5,562	21	42	9	41	
平成24年度	267	18,425	69	1,684	6,657	25	25	26	31	
平成25年度	267	21,759	81	2,262	6,498	24	32	29	32	
平成26年度	268	23,592	88	2,769	5,829	22	20	31	34	
平成27年度	264	23,869	90	2,565	5,153	21	13	29	30	
平成28年度	267	20,275	76	2,577	4,705	19	11	16	22	
平成29年度	265	19,693	74	2,629	3,683	15	11	11	11	
平成30年度	239	17,694	74	2,642	3,547	16	6	6	4	
令和元年度	224	17,176	77	2,535	3,397	16	8	3	3	
令和 2 年度	4月	7	393	56	—	75	11	0	0	0
	5月	10	555	56	—	95	10	0	0	0
	6月	22	1,260	57	—	219	10	1	0	0
	7月	20	1,204	60	—	223	12	0	0	0
	8月	18	982	55	—	223	13	1	0	0
	9月	18	1,113	62	—	228	13	2	0	0
	10月	23	1,764	77	—	302	14	0	1	0
	11月	19	1,368	72	—	221	12	1	0	0
	12月	20	1,279	64	—	221	12	1	0	0
	1月	19	943	50	—	153	10	0	1	0
	2月	18	1,122	62	—	183	11	3	0	0
	3月	21	1,314	63	—	219	11	1	0	0
計	215	13,297	62	0	2,362	12	10	2	0	
合 計	4811.0	309,954	64	32,779	86,913	18	537	177	795	

■こども明日花プロジェクト 事業報告■

1 経過・内容

「子どもの貧困問題」の解決に向けて、平成28年5月14日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」の活動

5事業年度は、令和2年2月からの新型コロナの感染拡大に伴い、大きな影響を受けました。一斉休校以降、市施設閉鎖や3密回避で、学習会や居場所づくりは休止し、こども食堂も開催できなくなりました。

一方、休校で突然、給食がなくなり、昼ごはんのなくなった子どもたちを心配して手作りのお弁当を届けたり、仕事や収入の減少、食費負担増加などに苦しむひとり親家庭を応援する「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」により、「食」支援を行いました。

また、こうした活動について、ニュースレターや SNS を通じて「緊急支援」を呼び掛け、多くの企業や個人の皆様から御支援をいただくとともに、コロナ対策の民間助成金も活用して、様々な活動の取り組みことができました。

学習会や居場所づくり、学校朝ごはんは、学校再開後は感染対策を講じて、実施しましたが、「こども食堂」の通常開催は難しく、主に弁当配布やフードパントリーで子育て家庭を支援しました。

県からの委託事業「こども食堂サポート事業」では、コロナ禍の県内のこども食堂を支援し、フードバンク山口などの協力を得て、食料品等を届けたり、県や県共同募金会等の助成金情報を提供、申請を支援して活動を支えました。

未だ、新型コロナウイルスの収束が見通せない中、まだまだ、困難な状況が続く子育て家庭を引き続き、支援するため、関係機関と連携して、取組を進めていきます。

今年5月で活動開始5周年となり、これまでの成果を振り返り、今後果たすべき役割を見据えて、次期5か年計画を策定し、活動の充実強化を図ってまいります。

○プロジェクト名 「こども明日花プロジェクト」

○ビジョン どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する

○ミッション 1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供する
2. 身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる

○事業内容 ・「学習支援」無料学習会（食事付き）、施設等へのボランティア派遣
・「生活支援」食事支援（こども食堂）、食品等の配布など
・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
・普及啓発・人材育成、地域の包括支援の体制づくり

2 事業内容

(1) 学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内5カ所で実施。※一斉休校期間中は休止。

会場	期間	回数	延べ 参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	R02.6.6 ~R03.3.13	42回	184人	119人	80人	199人
平川	R02.6.6 ~R03.3.13	37回	238人	138人	44人	182人
小郡	R02.6.6 ~R03.3.13	37回	201人	137人	37人	174人
大内	R02.6.6 ~R03.3.13	35回	226人	92人	48人	140人
宮野	R02.6.6 ~R03.3.13	36回	174人	96人	10人	106人
	計	187回	1,023人	582人	219人	801人

② 施設への派遣（児童養護施設）

入所している児童・生徒の学習補助ボランティアを派遣してきたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年間を通じて取りやめ。

派遣先	期間	回数	学習ボランティア	備考
吉敷愛児園	—	一回	— 人	その他送迎ボランティア

(2) 居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの生活・学習支援事業（上記の学習支援の一部を含む）」を受託、毎週土曜（午後3～7時半）、小中学生への学習支援と食事支援（夕食）実施。

※一斉休校期間中は休止。

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	R02.6.6~R03.3.27	35回	482人	243人	56人	299人

(3) ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）

ひとり親世帯の保護者グループ.style（ドットスタイル）との共催で、当事者同士が支援に関する情報の共有、意見交換を行うところであったが、新型コロナウイルスの影響でフードパントリーを中心に、相談対応を行った。

- ① 9月19日（土）13：00～14：00 8人
- ② 11月15日（土）13：00～14：00 8人
- ③ 1月9日（土）13：00～14：00 8人
- ④ 3月21日（土）13：00～14：00 8人

(4) 情報発信

- ① フェイスブック 平成28年4月開設
- ② ホームページ 平成29年1月開設、ブログ掲載
- ③ ニュースレター（年3回）令和2年春、夏・秋、令和3年新年
- ④ 地域情報新聞ほっぷ 平成28年2月から、毎月1回告知記事を無料掲載
- ⑤ 令和元年度活動報告（1,000部）

(5) 報道

①新聞

5月11日（月）「みんなにエール！弁当」宇部日報、朝日新聞、中国新聞、山口新聞

- 11月4日(水)「学業継続支援金、申込受付開始」宇部日報
- 12月7日(月)「サンタのケーキ便」瀬戸内タイムズ(光市)
- 3月10日(水)「みんなエール! 弁当 in 周南市」周南経済新聞(ネットニュース)
- 3月18日(木) 同上 日刊新周南

②テレビ

- 5月10日(日)「みんなにエール! 弁当」
NHK 山口、tys テレビ山口、KRY 山口放送、YAB 山口朝日放送

(6) 普及啓発

①「教育と福祉の連携」地域円卓会議

一斉休校や新型コロナ対応で忙しさが増す学校への配慮として、今回は開催を見送ることにした。なお、休校中や夏休み等の弁当配布は学校からも感謝された。

②「山口子ども応援ミーティング 2021」(令和3年2月14日、オンライン)

当初は令和2年5月開催を予定していたが、新型コロナの影響で延期し、結局、収束しないため、一堂に会することを諦め、令和3年3月14日、オンラインで開催した。講師は、NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむの赤石千衣子理事長、こどもの貧困対策センター公益財団法人あすのばの小河光治代表理事から、コロナ禍で困窮するひとり親家庭などの現状と支援の取組を紹介していただいた。

オンラインなので、東京の大学生から長崎の子ども食堂の運営者など、行政や民間、学生など、多様な参加者があり、約40人であった。

(7) 研修事業

周南市次世代政策課から、3年目となる「担い手育成研修」を委託され、基礎研修4か所、総仕上げとしてネットワーク研修を実施した。

○基礎研修 参加者のべ82人 ※時間は周陽・徳山 18:00~、菊川・勝間 13:30~

内容：周南市からの説明(次世代政策課)、取組事例(講師)、意見交換

地区	日時	会場	講師
東部 (周陽)	11月5日 (木) 18:00	周南市 周陽市民センター	・深川ルンルン食堂(長門市深川) ・みんなの久米ハウス(周南市久米)
西部 (菊川)	11月21日 (土) 13:30	周南市 菊川市民センター	・ジョイアスキッチン(下関市彦島) ・地域食堂「うぶすな」(周南市夜市)
中央 (徳山)	11月24日 (水) 18:00	周南市役所 多目的室	・小郡みんな食堂(山口市小郡) ・お寺でほっこり食堂(周南市) フードバンク活動(中特グループ)
熊毛 (勝馬)	11月29日 (日) 13:30	周南市 勝間市民センター	・こども食堂あすなる(下関市川棚) ・鹿野ふらっと食堂(周南市鹿野)

○ネットワーク研修

1月30日(土) 基調講演：NPO法人山科醍醐こどものひろば理事長村井拓哉氏
参加者 40人 会場：周南市役所多目的室とオンライン併用のハイブリッド

(8) 人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手(ヤングワーカー)」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、専門家による講演と意見交換を通じて、自ら考え、自ら行動する人材を育成する

「あすはなカレッジ」を開催した。今回はオンラインでの開催となり、大学生を中心に10人ずつ参加があった。

<講師・日程> 時間は2H

No	開催日時	講師
1	3月16日(火)19:00	ジョイアスキッチン主宰 下関市SSW 近藤栄一
2	3月23日(火)19:00	NPO法人こどもソーシャルワークセンター理事長、 滋賀県SSW 幸重忠孝

また、「高校生SDGsセミナー」として、3月20日(土)、オンラインで「SDGsとこども食堂、フードバンク」をテーマに開催。講師はNPO法人フードバンク山口 今村主税理事長、山口県こども食堂支援センター長 杉山美羽さん。参加は3名。

(9) こども食堂・地域食堂プロジェクト

○こども食堂

平成30年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、平成30年12月から山口市内3地域でこども食堂開設、運営している。

しかし、新型コロナ感染拡大により、市施設閉鎖や3密回避で令和2年3月以降、通常開催ができなくなり、休止、あるいは弁当配布やパントリーに切り替えた。

- ① 大内みんな元気食堂(計2回) 大内地域交流センター 食事 11:30~13:00
- ② 小郡みんな食堂(計12回) 小郡ふれあいセンター
- ③ えがお食堂よしき(休止) 吉敷地域交流センター

<開催状況> ※参加無料、弁当配布は事前申込制

地域	開催回数	献立	利用者数	ボランティア	合計
大内	2回	大内地域交流センター	244人	31人	275人
小郡	12回	小郡ふれあいセンター	1,353人	147人	1,500人
吉敷	0回	吉敷地域交流センター	人	人	人
合計	14回		1,597人	178人	1,775人

○小郡中・宮野中「学校朝ごはん」

「朝食を食べてこない」生徒に、ボランティアによる「学校朝ごはん」は小郡中校長の理解と協力により、令和元年6月から毎週水曜日に実施し、毎回15~18人が利用してきたが、一斉休校の間は中止。その間、自宅での昼食用としてパンを週2回、教員から手渡した。学校再開後は朝ごはんも再開し、7月からは宮野中でも開始した。

また、食材料として、山口県パン工業協同組合から引き続き、パンの現物寄付(今年は10万円分)をいただいた。小郡中はお米のご飯と交互に提供、宮野中は調理施設がないため、パンと果物、飲み物を提供した。

午前6時30分調理開始、毎回参加のボランティアに加えて、山口学芸大の学生も参加。宮野中は山口県立大学生が参加している。

実績：小郡中 令和2年5月27日(水)から3年3月24日(水)まで36回開催。

利用生徒数644人、教職員108、ボランティア177人

宮野中 令和2年7月1日(水)から3年3月24日(水)まで35回開催

利用生徒数260人、教職員68人、ボランティア102人

※他に、大内小、大内南小、湯田小、宮野小にも提案したがコロナもあり断られた。

○新型コロナ緊急支援（詳細は別途記載）

一斉休校などにより、こども食堂も開催されない中、困っている世帯におむすび配達や宅食を行った。小郡中では朝ごはんの代わりに、昼食パンを提供した。

（10）こども食堂サポート事業（山口県委託事業）

こども食堂が地域の子どもたちの居場所の一つとしての役割が期待され、また地域において多世代が交流する機能についても注目される「こども食堂」を県としても普及促進に取り組み、知事が「3年後に100カ所」にすることを掲げて、元年度から「こども食堂サポート事業」の委託を開始。中間支援機関として「山口県こども食堂支援センター」を掲げ、こども食堂の運営や開設について、相談対応や支援を行ってきた。

しかし、コロナ禍で、通常の開催ができず、一時はほとんどのこども食堂が休止となったが、感染状況に応じて、対策を取っての開催や、弁当配布やパントリーなど、様々な形で、地域の子育て家庭と関わり、支援に取り組んだ。支援センターとしても、感染症対策の研修会実施、情報や資材の提供などにより、活動を支援した。

開設セミナーは当初予定どおり、4か所で開催し、登録制度や助成金、フードバンクや丸久からの食材料支援などについて説明した。参加者も多く、開設に結び付いたケースもあった。また、県ファンド事業や県共同募金会からの緊急助成金などにより、新規開設も続き、年度当初は60カ所であったが、年度末には90カ所を超えている。

＜10月8日下松市、10月20日下関市、10月27日岩国市、10月29日美祢市＞

関係機関がこども食堂に関する情報共有を図り、協力して普及促進を目指す「県こども食堂推進会議」はコロナ感染拡大に伴い、1回（10月16日）のみ開催。

また、普及促進には市町・市町社協の理解と協力が必要であるため、オンラインによる研修会（2月2日、講師：湯浅 誠 むすびえ理事長）を開催した。

（11）トワイライト事業

こどもの居場所づくりに参加する子どもの中でも、より細かいケアが必要と考えられる子どもも少数人数に対して、複数のボランティアが関わり、勉強や買物、入浴、食事などを一緒にして、手厚い支援を行うもの。令和元年度に続き、2年目で、対象者は以前から通う高校生で月2回、学校帰りに寄り、ボランティアと一緒に夕食まで過ごす。

（12）新型コロナ対策

各種民間助成金等を利用し、主にひとり親家庭や学生に対する支援を行った。

①みんなにエール！弁当

当初、山口市内を対象に5月10日（日）から7月12日（日）まで弁当150食を10週連続、計1,441食をひとり親家庭に配布し、収入減少などに苦しむ各家庭から大変喜ばれるとともに、申込時のアンケートで厳しい生活状況を把握することができた。また、学習会やパントリーなどの情報提供を行い、利用につながった。

その後、地元にもこども食堂などがなく、弁当配布を実施していない県内の他市に出向き、地元市役所担当課と市社協に協力を要請し、小中学校でのチラシ配布や、配布当日の相談窓口設置など、協力を得た。その結果、6市（萩市、美祢市、光市、下松市、山陽小野田市、周南市）で、のべ18回2,300食を配布した。

さらに、年末にかけて、再拡大する中、山口市内で弁当とお米をセットにして、12月末と、2

月・3月で11回1,230食を配布した。※のべ34回、約5,000食

なお、弁当は県飲食業生活衛生同業組合の協力を得て、地元の料飲組合が紹介した飲食店等に注文し、お米はJA山口県山口統括本部からの寄付をいただいた。

<助成：内閣府「子供の未来応援基金」、WAM助成、中央共同募金会、山口県共同募金会>

②ごちそうさまプロジェクト

ひとり親家庭の「食」支援として、「宅食（食料品の託送）」「食事券（地元料飲組合の協力）」「買物券（丸久）」「お米（県産新米を配達）」を直接、各家庭に届けることとし、丸久、県飲食業生活衛生同業組合、JA山口県の協力の下、実施した。

前期（5月から6月まで3回）は県内380家庭、後期（11月から1月までの3回）は430家庭に届けることができた。申込はネットで各回、先着150組なので、特に後期は10分程度で終了するなど、好評であった。

申込時や配達後のアンケートを通じ、生活状況や支援ニーズなど把握できた。

<助成：ゴールドマンサックス緊急子ども基金、内閣府「子供の未来応援基金」>

③学業継続支援金

ひとり親家庭、児童養護施設出身、実家から独立（学費・生活費を自分で捻出）に該当する、県内の大学・短大、高専、専門学校等に通う学生に対し、学業継続支援金5万円を33人、丸久買物券5千円分を64人に提供。<助成：J-coin基金>

(13) 資金調達

① 助成金等申請

- ・福祉医療機構「令和2年度WAM助成」<採択>
- ・やまぐち子ども・子育て応援ファンド助成事業（こども食堂特別枠）<採択>
- ・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ型募金：5期）<採択>
- ・丸紅基金助成金（台所改修など）<採択>
- ・河村財団助成金（高校生SDGsセミナー）<採択>

【新型コロナ対策】

- ・内閣府「子供の未来応援基金」緊急支援 300万円
- ・ゴールドマンサックス緊急子ども支援基金 200万円
- ・J-Coin基金緊急支援 200万円
- ・中央共同募金会フードバンク等緊急支援 70万円
- ・全国こども食堂支援センター・むすびえ基金 50万円
- ・山口県共同募金会緊急支援 60万円
- ・日本財団 新型コロナ緊急支援 290万円（～2022.3）
- ・休眠預金 全国こども食堂支援センター・むすびえ 488万円（～2021.11）
- ・ " 中国5県休眠預金活用コンソーシアム 390万円（～2021.12）

②団体からの寄附金等

山口西京ライオンズクラブ
明治安田生命保険相互会社山口支社山口営業所
全国こども家庭支援センター協議会

② 子どもの未来応援企業（3社）

H28（株）池田建設、サン・ロード（株）
H29（株）TAMARU

③ 募金箱（50ヶ所）

④ 寄附付自動販売機（4台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）

H28 サン・ロード（株）、防長苑

H29 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

〔参考〕主な活動

- 31年5月10日 ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」開始（～7月14日）
- 5月23日 「ごちそうさまプロジェクト」受付開始（6月まで3回募集）
- 5月27日 一斉休校で休止していた小郡中「学校朝ごはん」再開
- 6月1日 防府南ロータリークラブ様からバームクーヘン150個寄付
- 6月12日 山口マツダ様からチョコレート4,000個寄付
- 6月16日 日本たばこ産業様からフィナンシェ3,000個寄付
- 6月18日 こども食堂研修会「コロナ禍とこども食堂」（オンライン）
- 6月20日 ボランティア説明会開催（山口市小郡）
- 7月1日 宮野中「学校朝ごはん」スタート（毎週水曜、朝）
- 6月28日 県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク「こども食堂勉強会」
- 8月1日 「大内元気屋ごはん」配布（夏休み中、計6回）
- 8月6日 高校生向け「アオハル・パントリー」実施（計6回）
- 8月16日 Jリーグ「レノファ山口対大宮アルディージャ」観戦招待
- 8月17日 明治安田生命保険相互会社山口支社山口営業所 御寄付御礼挨拶
- 8月25日 「みんなにエール！弁当in萩」実施（8/29、11/26、12/10）
- 9月15日 「こども食堂感染防止対策検討会」（山口市小郡）
- 9月24日 「みんなにエール！弁当in美祢市」（10/2、11/6）
- 10月8日 こども食堂開設セミナー（下松市）
10/20 下関市、10/27 岩国市、10/29 美祢市
- 10月16日 第3回こども食堂推進会議（受託事業、県庁）
- 11月5日 周南市担い手育成研修（全4回 11/21、11/24、11/29）
- 11月6日 県内の大学等に通う学生を支援する「学業継続支援金」受付開始
「みんなにエール！弁当in光市」（11/13、1/29、2/26、3/26）
- 11月7日 山口県助産師会研修会 講演（オンライン）
- 11月13日 「ごちそうさま・プラス」募集開始（1月まで3回実施）
- 11月15日 NPO 法人とりで子育て講演会で講演（岩国市）
- 11月25日 Jリーグ「レノファ山口対JEFユナイテッド」観戦に招待
- 11月26日 「こども食堂における感染症防止対策」研修会（オンライン）
「みんなにエール！弁当in山陽小野田市」（12/11）
- 11月27日 「みんなにエール！弁当in下松市」（12/4）
- 11月28日 こども明日花プロジェクト「ドネーションパーティーVol.2」開催
- 12月11日 「サンタのケーキ便」受付開始（県内100家庭に抽選）
- 12月14日 「赤い羽根テーマ型募金」活動団体認定式（山口県共同募金会）
- 12月19日 柳井市民生委員児童委員協議会等研修会 講演（柳井市）
- 12月25日 JT（日本たばこ産業株）山口支店様、明治安田生命保険株山口支社山口営業所の

皆様からクリスマスケーキをいただく

令和3年1月 「赤い羽根テーマ型募金（3年度）」募集開始（～3月末）

- 1月30日 周南市担い手育成・ネットワーク研修会（会場・オンライン）
- 2月 2日 市町・社協職員向け「こども食堂普及促進研修会」（オンライン）
- 2月 3日 J A 山口県山口統括本部様からお米の寄付
（有）かとう（仕出しのかとう）様から寄付贈呈式（県共同募金会）
- 2月 5日 光市民生委員児童委員協議会等研修会 講演（光市）
- 2月15日 県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク「スキルアップ研修会」
- 3月14日 県こども応援ミーティング（オンライン）
- 3月16日 「みんなにエール！弁当 in 周南市」（3/23）
- 3月16日、23日 若き担い手養成研修「あすはなカレッジ」（オンライン）
- 3月20日 高校生SDGsセミナー（こども食堂、フードバンク）オンライン

(13) その他

①講演等・説明 18回 657人

時期	対象・名称	場所	人数
R2.6/18	こども食堂研修会（コロナ禍とこども食堂）	オンライン	30人
6/20	ボランティア説明会	山口市小郡	10人
6/28	こども食堂ネットワークこども食堂勉強会	山口市・オンライン	25人
9/15	こども食堂感染防止対策検討会	オンライン	30人
10/8	こども食堂開設セミナー（全4回）	下松市他	80人
10/16	第3回山口県こども食堂推進会議	山口市（県庁）	25人
11/5	周南市地域の担い手育成研修（全4回）	周南市	80人
11/7	山口県助産師会 研修会	オンライン	30人
11/15	NPO法人とりで 子育て講演会	岩国市（シンフォニア岩国）	40人
12/19	柳井市民生委員児童委員協議会等研修会	柳井市	50人
R3.1/30	周南市ネットワーク研修（講演）	周南市役所、オンライン	40人
2/2	市町・社協職員研修会（こども食堂）	オンライン	40人
2/15	県ネットワーク スキルアップ研修会	オンライン	40人
3/14	こども応援ミーティング	オンライン	40人
3/16・23	若き担い手研修「あすはなカレッジ」	オンライン	30人
3/20	高校生SDGsセミナー	オンライン	8人
3/24	令和3年度山口県こども食堂サポート事業プロ ポーザル・ヒアリング	山口市（県庁）	7人

②会議等（山口市こども家庭課）

時期	対象・名称	場所	人数
R03.3.5	山口市 居場所づくり意見交換会	オンライン	10人